



新年明けましておめでとうございます

戦争協力事務をしない自治体を

京都市の非核・平和都市宣言(昭和五八年(一九八三年)三月二三日 京都市会)には「京都市は、戦争に協力する事は行わない。」と書かれています。にもかかわらず、自衛隊の募集広報の業務を支援するような取り組みがされ、最近では人権侵害裁判や「ハラスメント」の問題など「ブラッくな組織」への協力がされ続けています。最たるものが「隊員応募適齢者」の個人情報提供です。これは18歳と22歳になる市民の住所・氏名を「宛名シール」の形式で自衛隊に提供するというものです。本人の同意なしにことをすすめ、広報は市のHPにだけ載せているもので、除外申請を受け付けていますが、一か月程度の周知で宛名シールを自衛隊に渡しています。住民の個人情報をなんとか思っているのでしょうか。自衛隊がどんなことをしているのか、心が痛まないのでしょうか。二〇二二年十二月に閣議決定した「国家防衛戦略」など「敵基地攻撃の大軍拡・大増税」路線をもとに自衛隊は「人的基盤の強化」を推進するため、隊員の補充体制を自治体も含め確立しようとしています。「赤紙(召集令状)」を配る「兵事情報」として名簿の整備をすすめているわけですから、「徴兵制」への布石と受け止め、きっぱりと断る自治体であってほしい。「政府の行方による戦争の惨禍」に再び国民を巻き込んでしまう、そんな状況をなんとか食い止めようではありませんか。ときはまさに、「平和のとりで」としての地方自治体を求めています。「自衛隊への提供は、個人情報保護の観点から中止する」とマニフェストに掲げる福山和人さんが京都市長になれば、二〇一九年から続いた「自衛隊への宛名シール提供」は止めることができます。そんな一歩を踏み出す年にして、火だるまになった政権を替え、大軍拡・大増税路線をストップさせ、憲法9条をもつ戦争被爆国の「ブランド」を活かした平和創造に踏み出しましょう。

京都平和委員会 理事長 片岡明



京都の2月、福ちゃんと一緒に鬼退治

「平和」な京都を作る仲間のつどい

福山和人さんが京都市長選挙に出馬を表明しました。

京都市に暮らす私たちにはたくさんの心配事があります。

平和とは戦争がない社会というだけでなく誰もが明日の命を心配することなく過ごせる社会です。

そんな社会をつくるために再び立候補を決意された福山和人さんを京都市長に。

「平和」をキーワードに様々な団体で活動する仲間の皆さんを中心に、福山さんと一緒にこんな京都をつくりたい、こんな未来をつくりたい、と思いを共有する集いです。

「平和」な社会を願う方は、どなたでもご参加いただけます。

部分参加、途中退室も可能です。ご家族、ご友人も誘ってご参加ください。

福山和人さんが挨拶にお見えになります。

日時：2024年1月13日(土) 14:00~15:00

会場：ラポール京都4階第7会議室

主催：京都平和友好・宗教者連絡会
連絡先] 京都原水協(安保)・篠原
Tel 811-3203/FAX 811-3213

今年こそ希望の持てる年に



新年あけましておめでとうございます。

今年こそは良い年にしたいと思っっている方は多くおられると思います。

昨年は辛い事件が多すぎました。ウクライナやガザ自治区への侵略行為により、多くの尊い命が奪われ続けています。麻酔薬なしで帝王切開をし、命がけで産んでもミルクもオムツも、食べ物もない……。怒りと涙がこみ上げます。

そして今、物価高騰で多くの市民が苦しんでいます。その対策に非課税世帯にのみ1回きりの7万円の給付が行われますが、あまりも不十分であり、京都市は給付が2月となり遅すぎます。暮らしや営業に最も効果がある消費税の減税はやろうとしないのも、ほんとに情けない政府です。

一方で、自民党政権の政治資金パーティー券を巡る裏金疑惑問題は、閣僚から安倍派を外しても解決するものではありません。パーティー券を含めて、

企業献金を全面的に禁止すべきです。こんな政治とカネの問題が明らかになる中で、長く続いてきた自公政権は末期状態であり、そんな政党等に担がれている市長候補の皆さんは選挙をいかに取り組むのかと思います。政党のしがらみ等ない無職属・市民派、法律の専門家・弁護士の福山和人さんが市長になれば、クリーンで市民本位の市政になるかを考えるだけでワクワクします。

市長候補が選挙の時に掲げる公約（マニフェスト）は当選すれば、その実現に向けて市政が動き出します。

京都市が独自に行ってきた施策を大きく後退させた「敬老乗車制度の負担の3倍化」「民間保育園の補助金カット」などを元に戻すのか、それとも、今の市長のやり方を継承し民間委託や民営化を進め福祉を切り捨てていくのかが大いに問われます。全員制の中学校給食は「巨大給食センター」で進めようとしています。

それとも、学校調理方式に変更し進めるのかも市長選挙にかかっています。

最後に、高い学費に苦しむ学生さんや家族の支援策もぜひとも実現したいです。奨学金の返済を苦に自殺をした方が10人もおられたことが明らかになりました。（2022年度警察庁発表）おそらく氷山の一角です。そもそもは日本の高い学費が問題です。独自の奨学金の創設や返済支援を実現し、若い方々が希望を持って暮らし働ける京都市にしたいと心から思います。

現職市長が退任し、16年ぶりに新人対決になる今回の市長選挙は（2月4日投票）は市政を変える絶好のチャンスです。新しい市政を市民と福山和人さんと共に実現する年にしましょう。

京都市議員 玉本なるみ（北区在住）

<ご報告&編集後記>

12月16日に京都平和委員会の理事会が開催されました。多分この北上版が折り込まれている新年号には、京都平和委員会の顧問で、八幡平和委員会で活動されている小畑哲雄さんが一面に登場しているはず。小畑さんはNHKなどの取材を受けられたので、テレビで見たという方もおありかと。講演記録を八幡平和委員会が冊子にしたとの紹介がありました（1冊500円、ご希望の方は京都平和委員会までご連絡ください）。戦争体験者の話を直接聞く機会が少なくなった今、若い人に（自称でいいです）是非読んでほしいです。京都平和委員会でも暖かくなったところに、直接お話を聞く機会を作る予定です。

舞鶴平和委員会は「トマホークくるな40周年」で何かやりたい！と。青年部時代に大挙して「人間の鎖」をしに行ったことを思い出します。あの頃若かったみなさんも、中堅だった皆さんも、乞うご期待です。

地域での平和委員会ができて、目に見える活動をするのが今の情勢の中で求められているのですが、地域平和委員会の立ち上げは一人ではできません。一緒にやってもいいよ！というお声をお待ちしています。地域でこんなことやってるよ、平和委員会でこんな話をしてね、等々のご要望もぜひお寄せください。 miyakowasure@hera.eonet.ne.jp 太田啓子

